

30 愛防第 50 号
平成 30 年 10 月 12 日

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

発生予察情報の送付について

病害虫発生予察注意報（第 3 号）を下記のとおり発表したので送付いたします。

平成 30 年度 病害虫発生予察注意報（第 3 号）

平成 30 年 10 月 12 日
愛 媛 県

病害虫名 シロイチモジヨトウ

対象作物 野菜・花き類

1 発生地域 県下全域

2 発生程度 やや多～多

3 注意報発表の根拠

- (1) 県内 5 カ所に設置している性フェロモントラップの誘殺数は 9 月下旬になって急増し、各調査地点とも平年の 1.8～6.7 倍となっている（図 1）。
- (2) 成虫の誘殺状況から、平年より多い次世代の幼虫被害が懸念される。
- (3) 平成 30 年 10 月 4 日高松気象台発表の 1 か月予報では、気温は高く、降水量は多い見込みとされ、発生にやや助長的である。

4 防除上の注意

- (1) 本種の加害作物は、ネギ、アスパラガス、キャベツ、ハクサイ、オクラなどの野菜類のほか、カーネーション、キクなどの花き類など広範囲に及ぶので寄生状況に注意する。
- (2) 卵塊で産み付け、ふ化後間もない幼虫は集団で加害するため、卵塊や食害葉は見つけ次第捕殺する。
- (3) 幼虫が成長すると薬剤の効果が低下し、食害量も増加してくるので、若齢幼虫期（体長が 1 cm 未満）の防除が有効である。
- (4) 農薬使用に当たっては、作物ごとの農薬登録を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため系統の異なる薬剤をローテーション使用する（表 1）。
- (5) 野菜や花き類の育苗ほ場や施設栽培では防虫ネット（4 mm 目合い）によるトンネル被覆や施設開口部の被覆を行い、成虫の侵入を防止する。

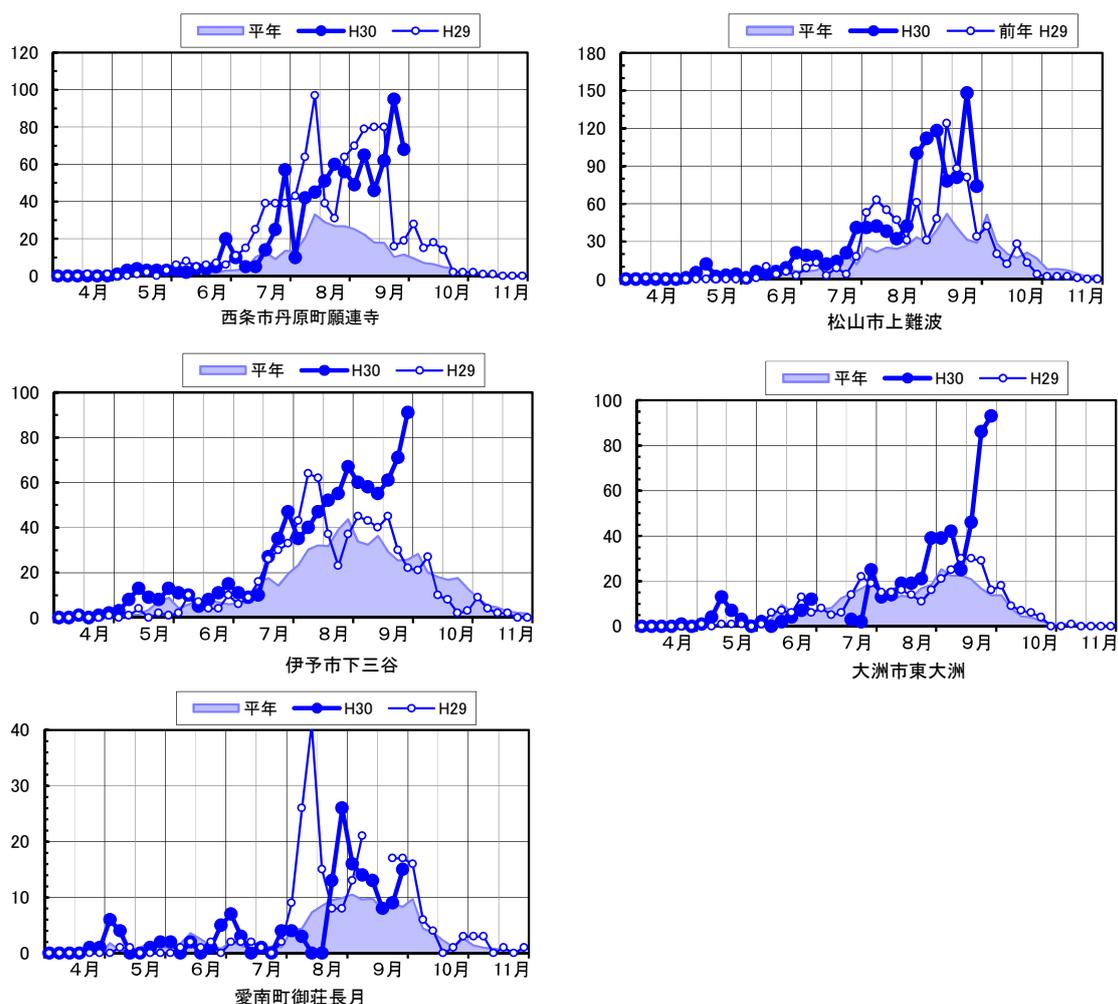


図1 性フェロモントラップにおけるシロイチモジヨトウ誘殺消長

表1 主な防除薬剤一覧(平成30年度愛媛県農作物病虫害等防除指針より抜粋)

作物	IRAC コード	薬剤名	使用倍率	毒性		使用時期	使用回数	
				人毒	水産 ^{注2)}			
ねぎ	15	ノーモルト乳剤	2,000	普通	△	収穫7日前まで	2回以内	
		アタブロン乳剤	2,000	普通	△	収穫21日前まで	3回以内	
		カスケード乳剤	4,000	普通	△	収穫14日前まで	3回以内	
		マッチ乳剤	2,000	普通	△	収穫7日前まで	3回以内	
	18	ファルコンフロアブル	4,000	普通	○	収穫前日まで	2回以内	
		マトリックフロアブル	1,000~2,000	普通	○	収穫7日前まで	3回以内	
		ロムダンフロアブル	2,000	普通	○	収穫7日前まで	3回以内	
	6	アフーム乳剤	1,000~2,000	普通	△※	収穫7日前まで	3回以内	
		5	スピノエース顆粒水和剤	5,000	普通	○	収穫3日前まで	3回以内
			ディアナSC	2,500~5,000	普通	○	収穫前日まで	2回以内
	28	フェニックス顆粒水和剤	2,000~4,000	普通	△	収穫7日前まで	3回以内	
		プレバソンフロアブル5	2,000	普通	△	収穫3日前まで	3回以内	
		ベリマークSC	2,000	普通	△	収穫7日前まで	1回	
			ベネビアOD	2,000	普通	△	収穫前日まで	3回以内
	13	コテツフロアブル	2,000	劇物	△※	収穫7日前まで	2回以内	
22A	トルネードエースDF	1,000	普通	○	収穫14日前まで	2回以内		
un	プレオフロアブル	1,000	普通	△	収穫3日前まで	4回以内		
キャベツ	13	コテツフロアブル	2,000	劇物	△※	収穫前日まで	2回以内	

注1) IRACコード(平成30年度愛媛県農作物病虫害等防除指針P.2参照)

注2) 水産動植物への影響(平成30年度愛媛県農作物病虫害等防除指針P.8参照)